

まち活 ～夏の特別講座～ 女川町×復興庁×日本創成会議

8月24日に復興まちづくり情報交流館で、「まち活～夏の特別講座～」を開催しました。小泉進次郎復興大臣政務官と増田寛也日本創成会議座長を特別ゲストに迎え、オープニングトークの講演後には、まちづくりワーキンググループメンバーや中高生などが将来の女川町について意見交換を行いました。（2ページに関連記事）

各グループの主な意見・ゲストの感想



A 参加したみなさんの熱い思いを どうやって周囲に伝えていくか

○この熱気を伝えるには、情報の発信力と受け取る側の当事者意識が重要。当事者意識を高めるには、子どものころから地域活動に関わり、町の将来を考える教育を行っていく必要がある。



B 将来を担う世代が牽引する町に

○女川町に住む魅力や価値を見出すためには、若い世代が幸せになり、町を引っ張っていく環境づくりが必要。自然を活かしたキャンプ場の設置や出島等を観光地にし、広く発信していくことが重要。



C 海を観光資源としてどうコンテンツ化するか

○人を呼び込むために、マリンスポーツなどの突出した特徴を形成することが重要。また、海洋資源の保全、来訪者のお出迎えの体制（体験やおもてなし）を整えることもみんなで行っていく必要がある。



D 20年後に向けた、海の資源(ほや、かき等)保全

○中学生からは、小さいころより海に関わっていき、漁師を育てていくことが大事であるという意見があがった。そのためには、生活の一部に海が根づくよう漁業体験等の機会を増やす必要がある。

E たくさんの方が帰ってきたい女川町に

○ほやの美味しさを広めるなど、みんなで魅力の再発見をして、女川を出た人にもまた帰ってきてほしい。

F 女川町の素敵な田舎っぷり

○女川町民のやさしさや人の想いをつなげていくことが大切。そのために、昔の女川の姿を残していく取り組みも必要。

G 充実した福祉により、一人で死んでいけない町に

○さまざまな資源を掛け合わせていくことで、魅力が増し、交流人口の増加につながる。良好な環境を活かして全寮制の高校の設置や医療・福祉に力を入れることで若い世代が増え、人の循環ができるようになる。みんなで資源を磨き直すことが大切。

H 健康、福祉、仕事、スキルアップ

○女川を巣立った人が町に戻りたくするような魅力あるまちにするため、福祉や就業環境等を整えてほしい。

- 小泉政務官…これだけの熱い想いを女川町の方が持っていて、将来は明るいと思い、希望を感じる時間でした。本当に女川町が大切にすることは何かと考えた時、出てきたことは「人」です。女川町の人の素晴らしさが目に見え、感じられる取り組みを今後も考えていってほしい。
- 増田座長…この熱さを冷ますことなく維持していくには、外部の者だけでなく女川町民が重要となります。女川町の想いを広げていくには工夫が必要で、その工夫をみなさんで考えていただきたい。
- 須田町長…みなさんがこの地でどうしていくか、自分たちで行動を起こさなくてはならないという信念を持っていることを強く感じ、頼もしく思います。今後、さまざまな人を巻き込んでいくことで、女川町は笑顔が溢れ、勝ち残っていける町となります。これからもみなさんのお力を借りて、一緒になって取り組んでいきます。

おながわ川づくり教室 女川の豊かな自然について学ぼう！

9月6日に「おながわ川づくり教室」を開催しました。午前は親子5組 13名が参加し、川に入って探検、生き物調べを行いました。午後は、13名が参加し、多自然型川づくりの講座とワークショップ形式の情報交換を行いました。

【午前の部】

女川にはどんな生き物がいるの？

親子で川に入ってガサガサ探検

日蔭3号橋や奥清水溪流の森付近で、親子で川に入って生き物調べをしました。たも網を使い、川魚（ウキゴリなど）や水生生物（ヘビトンボなど）、サワガニなど、きれいな川にしかない生き物を見つけました。見つけた生き物はNPO法人水環境ネット東北の生き物博士に解説いただき、みんなで女川の自然を勉強しました。

【午後の部】

講座：多自然川づくりの考え方と実践

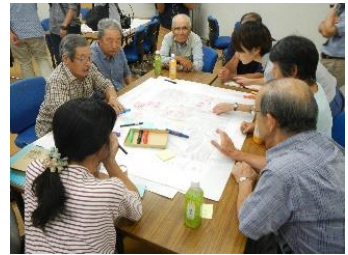
～女川をよりよい川に～

講師：吉村伸一氏（株式会社吉村伸一流域計画室）

多自然川づくりの専門家である吉村氏から、横浜市や愛知県の河川整備の実践について説明がありました。多自然型川づくりに取り組むことで、どぶ川から生き物が生息する川に生まれ変わり、住民の利用増加や住民主体の環境活動につながった事例の紹介がありました。

情報交換会：女川いいところ発見

二級河川女川について「子どものころに遊んだ所」「魅力」「どんな川にしたいか」をテーマに情報交換を行いました。参加者から、自然環境の観点から「干上らずに魚が遡上できる川」、「森と川が一体になっている環境」、防災の観点から「雨が降っても暴れない川」、「安全に川遊びができる川」、利用の観点から「子ども大人もみな楽しめる川」、「散歩ができる川」という女川に対する思いが出されました。



●まちカフェ企画

「子どものまちづくりイベントを企画しよう」ワークショップ

8月25日、旧女川一小で向学館スタッフ3名と一般参加者4名、高校生2名が参加し、出張まちカフェを開催しました。

テーマは、「子どものまちづくりイベントを企画しよう」。7月に小学校の放課後の時間を使って、「将来の女川町」をテーマに表現してもらった作品を見ながら、意見交換を行いました。向学

館の松本さんから、低学年、高学年の子どもの特性をレクチャーしていただき、子どもたちが考えやすいテーマや参加しやすい方法などを話し合いました。

「まず、まちのことを知ることが大切」という高校生の意見も取り入れ、10月中に、親子向けのまち歩きが開催できるよう、企画を進めています。

まちカフェ 10月の予定

毎週 **木** 曜日 16～20時 復興まちづくり情報交流館

毎週のまちカフェでは、ゲストとのトークセッション、テーマトークなどを実施しています。また、要望をいただければ、サークル活動などにも出張します！

まち活メールにご登録を！

まち活では、講演会、実践講座、まちカフェ、まち歩きなどのイベントを随時開催していきます。メール登録していただければ、いろんな情報をリアルタイムで配信します。メールの件名に「まち活メール登録」、本文に「氏名、年齢、性別、職業（所属先）」をご入力の上、fukko7@town.onagawa.miyagi.jp までご送信ください。

◆問合せ先 女川町まちづくり推進協議会／ワーキンググループ事務局

役場復興推進課復興調整係 ☎54-3131 内線 239

◆まち活 Facebook <https://www.facebook.com/machikatsuonagawa>